

ペダルよ、あれがパブの灯だ Pedal Power to Ireland

尾関康之著 四六判・上製本・354頁・2000円
リトル・ガリヴァー社刊 ISBN4-947683-61-9



(株)リトル・ガリヴァー社

〒543-0072

大阪市天王寺区生玉前町4-19-501柳田ビル

TEL06-6775-9721 FAX06-6775-9757

<http://www.l-gulliver.com/>

本書の内容

プロローグ 旅の始まり

第一章 下準備

第二章 食ヲ以テ天ト為ス

第三章 天と地と モンゴル サイン！

第四章 バルシヨイ シベリア！

第五章 ハラシヨイ、ロシア！

第六章 ヨーロッパを、かじる

第七章 カウント・ダウン

第八章 アイルランド！

エピローグ ジョイス塔に回帰して

自転車野郎尾関康之は、一九九八年四月に、愛車「ロケットボーイ・ワン」と共に、大阪・神戸を発ち、一路天津に向かった。これからアイルランド・ダブリンまで自転車漕行する「始まり」だった。

その日は、出発を祝福するような快晴だった。特注した自転車、装備は万全。出発直前まで実行した体力づくりにも自信があった。が、それにも増して一万二千キロを超える走行距離は、未曾有の魅力と不安があったのだった。

「ロケットボーイ・ワン」は、中国・天津からさらにモンゴルに向かう。まだまだ、「序章」に過ぎない果てしない「旅」は続く。

しかし、かれは旅の途中で出会う多くの民族、家族の人たちに励まされ、予想外の歓迎を受ける。「地球は一つ」「人間はみな同じ」という思いを深く抱いたという。そしてなによりも自然の大地のすばらしさ、山河、高原の美しさが行く先々で彼を魅了した。すべてはかれが見る初めての光景だった。

やがて、国境を越え、ロシアに突入。容易ではなかったビザの取得。決められた日程というハンディにもかかわらず、そして自転車トラブルにもめげず、ひた

すらロシアの大地、ユーラシア大陸を疾走し続けた。ときには出会いと別れという現実にも、ほろ苦い涙もこぼした。大地のような優しさに触れて、かれは素直に感動すらした。

到着を待つアイルランドからの温かいエールも力になった。とくにライブ放送となった「ジェリー・ライアン・ショー」のジェリーとリスナーの人たち。

最後の山脈ウラルを越えると、そこは「ヨーロッパ」だった。夢にまで見たヨーロッパにようやくたどり着いた。じつに一万キロにせんとする距離。行程の八割をここに走破したことになる。

あれほど苦労した、砂漠の砂路、延々と続く「轍」路、そしてアップダウンの道のあとは嘘のように緑深い光景に囲まれた、最高の道路が待っていた。フィンランド、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス、イギリス、一步一步、アイルランドは視野に近づく。そして、ついに一九九八年九月十一日、アイルランド・ダブリンに着地した。かれを待っていたのは本物の「ギネス」。その一杯のために、かれの夢は現実のものになった。

感動のフィナーレ。感涙の完結。

尾関康之著「ペダルよ、あれがパブの灯だ」

予約申し込み

本書を予約します。() 冊

お名前

住所

連絡先

*お払いは著書到着後、同封の「郵便振替」にて、ご送金下さい。なお、代金は書籍+税+送料(五冊以上無料)となっております。